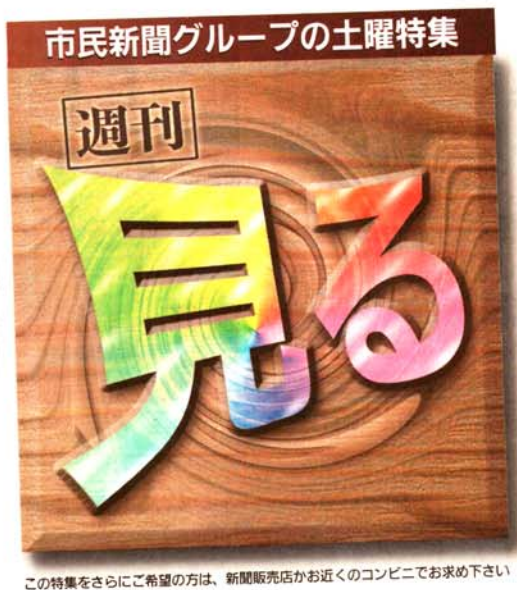


ふるさとのお宝再発見

119



この特集をさらにご希望の方は、新聞販売店かお近くのコンビニでお求め下さい

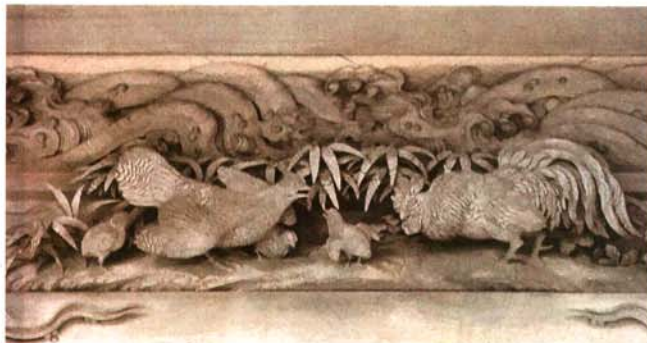


松に鷹の脇障子は1800年に立川啄斎富種によって完成をみた

鷹は「飢えても穂を摘まず」と言い、孤高にして気位高く、どんなに腹をすかしていても人間の作った稲穂をついはんだりしない。「節義を守る人はいかなる時でも不正をしない」ということわざになっていて、彫刻では松と一緒に使われます。松は魔除け、神の降りてくる樹、常緑で不老不死の象徴、仙界に生える木、松の実や樹脂は薬用・香料に使われ珍重されています。中国では竹、梅と共に「傲寒の三友」と言い、日本では松竹梅で縁起が良いとされます。

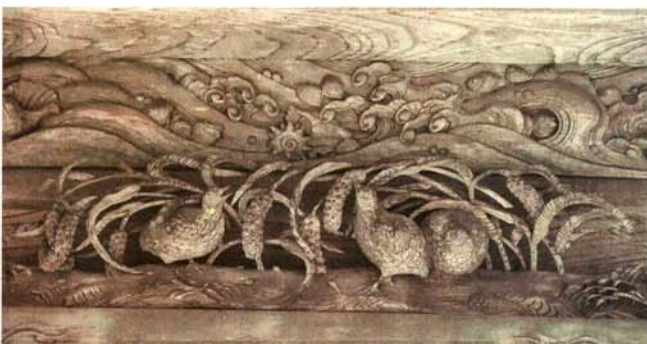
松に鷹

諏訪大社上社本宮では今年9日、既に指定されている6棟の国重要文化財に加え布橋や神楽殿など10棟(ほかに附として銅鳥居など2棟3基)が国の重要文化財に指定されました。諏訪の大隅流・立川流の棟梁や携わった人の知恵と技量、作意の集大成として顕彰されることは喜ばしい限りです。それぞれの詳細な検証は継続してやってみたいと思いますが、この「お宝再発見」の私の分担も今回が最終回であることから、幣殿・拜殿・左右片拜殿の彫刻を解説してけじめとしたいと考えます。



つがいの鶏と3羽の雛

左右片拜殿の虹梁には、つがいの鶏と3羽の雛、粟穂に鶏が彫られています。鶏は家族の睦まじさ、健康と繁栄、安産の象徴です。立川得意の粟穂には中国伝来の深長な意味が隠されています。この意匠は書画、陶芸、工芸に古くから見ることができ、穂の日本語読みは「すい」。穂がでることを出穂と言います。何故か中国語でも読みは「すい」。中国語で「歳」の読みも同じ「すい」。鶏の中国語読みは「あんちゅん」で「平安」の中国語読みも同じ「あんちゅん」です。すなわち合わせて「一年の平安」を意味しています。多数の鶏と粟



片拜殿虹梁の彫刻。上がつがいの鶏と3羽の雛。保存状態も良く奥行きがある。下は粟穂に鶏で「一年の平安」の意味。上部はなぜか波と貝尽くし?



唐獅子と牡丹

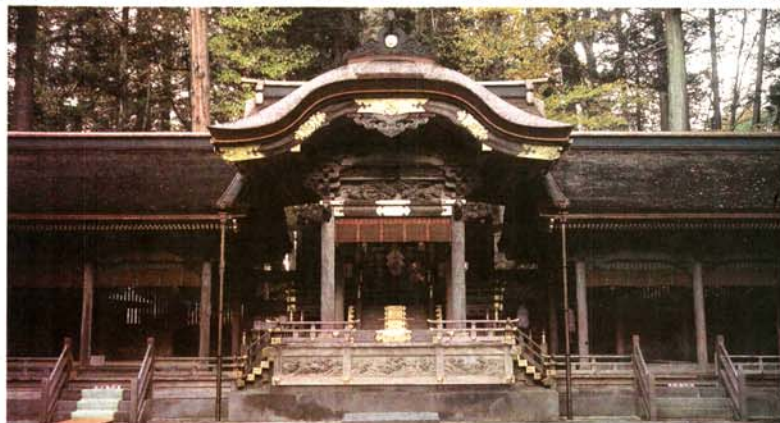
左右片拜殿の腰羽目には、唐獅子が牡丹と共に何枚も彫られています。この彫刻を模刻



上下とも片拜殿腰羽目の唐獅子に牡丹の彫刻。原木は200規、厚さ25字。立体感にあふれている。唐獅子と牡丹の彫刻については本連載第72回を参照

諏訪大社上社本宮幣殿・拜殿・左右片拜殿の彫刻 「五意達者」の華麗な技

諏訪市



正面中央が拜殿。奥に幣殿。左右に片拜殿。それぞれ別の社殿であるが、屋根や棟木を微妙につなげてある

(全く同じように彫刻しようとしている小野貴登司さんと昨年縁があったお付き合いをしています。東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室の大学院生です。昨年千曲市の興正寺の薬医門にある富昌の「子持ち龍」を模刻したそうです。お話しによれば唐獅子一枚の原木の厚さは厚さ25字、高さ80字、幅160字、原木の重さ500字。このような厚さは現在入手困難で、北陸の専門店から2枚を接ぎ合わせて運んでもらったそうです。値段も100万円を超えているそうです。(なんと自費負担とのこと) この木を粗彫りすると180字、最終的には細緑の部分もあって100字くらいになるそうです。模刻をしようとする、このような学問があることに驚かされますが、ましてや江戸の末期にこの乾燥した檜の良材を多数集めるという事の偉大さに言葉がありません。こうした目であらためて彫刻の一枚一枚を念入りに見てみたいと思つたのです。なお毎年1月末に院生の卒業・終了作品展が芸大の陳列館で開催されています。興味のある方はぜひ観覧してみてください。

見ることはできましたが、写真撮影等困難で映像で紹介できないのは残念です。江戸時代初期の大工技術書「匠明」に「五意達者」という言葉があります。すなわち①式尺の墨曲(寸法の比例等を認知して曲尺を駆使し複雑な納まりを図解できること)②参合(工費や材料手間の積算ができること)③手仕事(自分の手も自在に使えること)④絵様(彫刻の下絵が描けること)⑤彫物(自分で彫刻が出来ること)。立川初代富棟、2代富昌の2人はまさにこの五意達者の人であったと思います。幕末という時代背景や明治維新。後の人たちは時代が五意達者を許さなかったと思います。更には五意達者のほかに人間性や感性、情感、時代や環境も重要な要素だと感じられます。現代では仕事も社会も内容が微細にして複雑多岐、一意達者もままありません。諏訪に立川・大隅の日本の誇る華麗な木彫が多数存在することを認識し、「お宝再発見」がその神髄を感じられる一助になることを願ってやみません。

最後に、原稿の掲載後に、解明されたことや指摘があり、修正加筆の必要が多々あります。ご意見、ご指摘をいただければ幸いです。(岡谷市文化財保護審議会委員、諏訪市文化財専門審議会委員で、諏訪総合設計代表の宮坂正博さんに執筆していただきました。次回はやきもち踊り(伊那市)を紹介します。